

2011年3月期決算説明会

2011年5月13日



日本アビオニクス株式会社

**このたびの東日本大震災により、
被災された皆さまに
心よりお見舞い申し上げます。
一日も早い復興をお祈り申し上げます。**

◆被災状況

- ・従業員、家族への人的被害なし
- ・操業(生産拠点)は一時中断
 - － 全ての事業所・生産会社が3月24日までに再開
- ・営業所は一部移転予定
 - － NEC Avio赤外線テクノロジー(株)仙台営業所
現在、福島アビオニクス(株)内で営業中

※ 2011年3月期に災害損失1.4億円を特別損失に計上

◆現在の対応 【お客様納期確保に最善を尽くします】

- ・部材調達の確保、代替検討
- ・夏季節電要請のため、就業日の輪番振替えを検討
- ・原発避難地域拡大懸念への自主対策
 - － 福島アビオニクス(株)で放射線量を毎日定点観測

2011年3月期決算 2012年3月期業績見通し



会社概要

- 設立 : 1960年4月8日 (NECとHughes Aircraft社との合併)
- 資本金 : 51億45百万円 (1988年2月、東証二部上場)
- 製品 : 情報システム、電子機器、
プリント配線板、赤外線・計測機器
- 従業員 : 1305人 (2011年3月連結)
- 代表取締役執行役員社長 : 山下 守
- 本社 : 東京都品川区西五反田
- 事業所 : 横浜事業所 (横浜市瀬谷区)
新横浜事業所 (横浜市都筑区)
- 主な子会社 : 山梨アビオニクス株式会社
福島アビオニクス株式会社
日本アビオニクス販売株式会社
NEC Avio赤外線テクノロジー株式会社
- 株主 : NEC : 50.004%、他 : 49.996% (普通株式 持株比率)

【売上高増加】	前期比 +25.7億円(+9.7%) <ul style="list-style-type: none">・ 官需(情報システム) +15.1億円(+11.6%)・ 民需 +10.6億円(+ 7.9%)
【営業利益減益・ 当期純利益赤字】	営業利益 2.4億円(前期比△0.6億円) 当期純利益 ...△1.8億円(前期比△3.4億円) <ul style="list-style-type: none">・ 特別損失 1.7億円の計上
【CF黒字確保】	フリー・キャッシュ・フロー 4.5億円(前期比△6.9億円)
【Net D/Eレシオ改善】	0.99 (前期比 0.04改善) <ul style="list-style-type: none">・ 手許流動性を確保(現預金残高 前期比+14.5億円)・ 有利子負債残高 109.6億円(前期比+10.0億円)
【配当金】	無配継続

(注) 記載金額は0.1億円未満を四捨五入しております。

2011年3月期決算

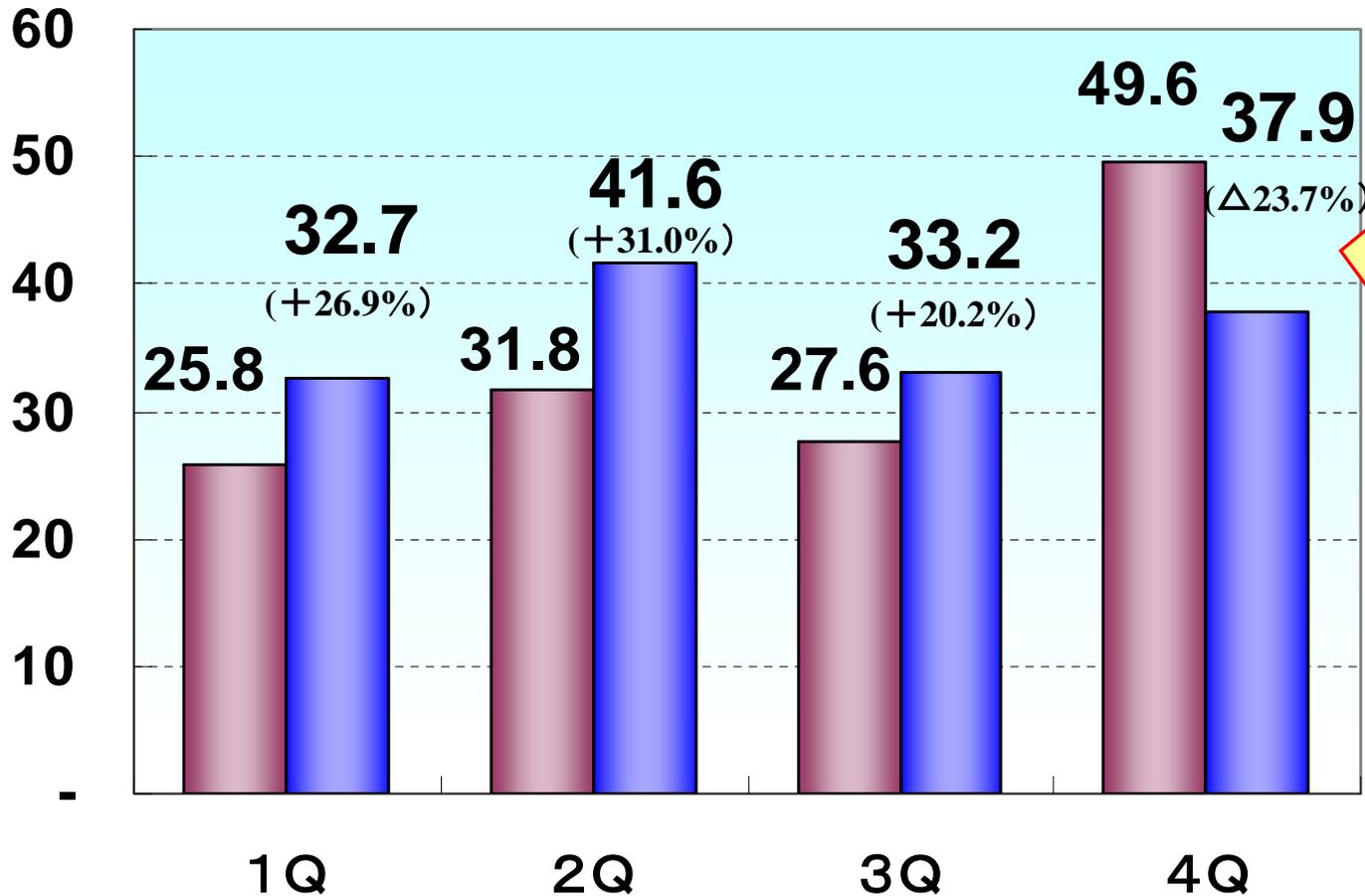
(金額単位: 億円)

	2010年3月期	2011年3月期		
			増減額	増減率
売上高	265.6	291.3	25.7	9.7%
営業利益 (営業利益率)	3.0 1.1%	2.4 0.8%	△ 0.6 △ 0.3%	△ 19.9%
経常利益 (経常利益率)	2.2 0.8%	1.4 0.5%	△ 0.8 △ 0.3%	△ 35.3%
当期純利益 (当期純利益率)	1.6 0.6%	△ 1.8 △ 0.6%	△ 3.4 △ 1.2%	—
1株当たり配当金	0.0	0.0	0.0	—

四半期別売上高推移（民需）

（金額単位：億円）

■ 2010年3月期 ■ 2011年3月期



**3Qまでは
前年同四半期
比20%超の
拡大も、4Qは
大幅減**

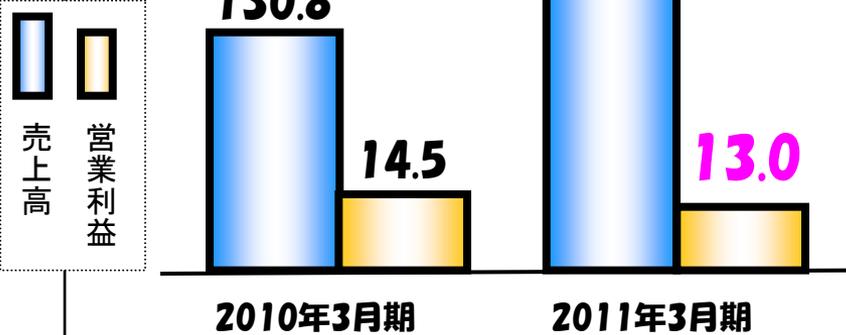
業績見通し比
(22年10月公表民需売上高)

△9.1億円

(注) ()内は前年同四半期比増減率

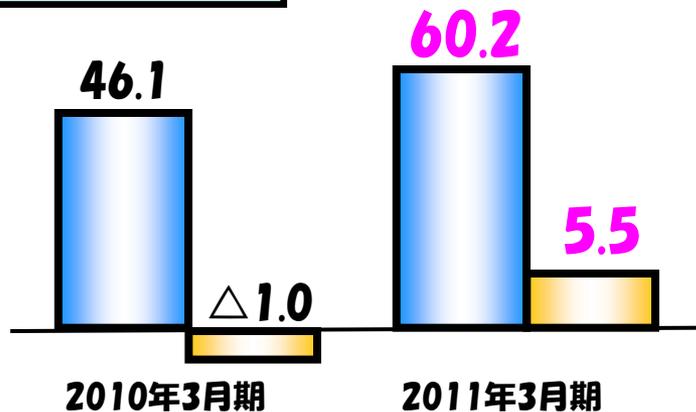
セグメント別業績サマリー

情報システム



- 表示・音響及び指揮・統制関連装置が好調に推移したことから売上高は増加
- フロダクトミックス及び緊急対策一部解除に伴う費用増で営業利益は減少

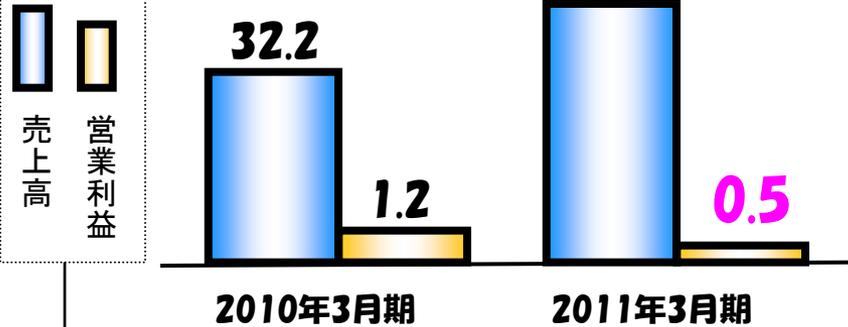
電子機器



- 国内外水晶メーカーの設備投資（タブレットPC、スマートフォン用）の増により接合機器の売上高が好調に推移
- 売上増によるGP増で緊急対策一部解除に伴う費用増をカバーし営業利益は大幅増

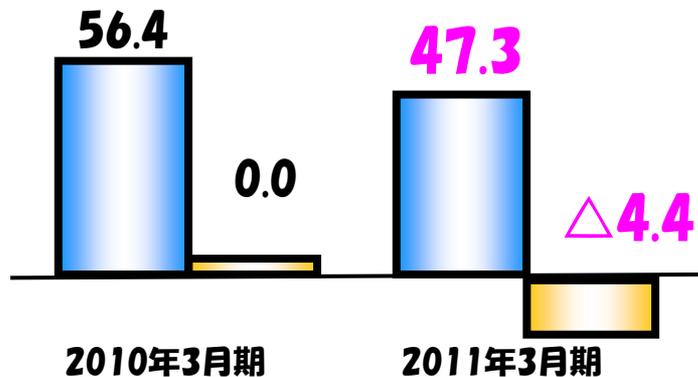
セグメント別業績サマリー

プリント配線板



- ▶ 半導体検査機器市場の回復に伴い売上高は増加
- ▶ 売上増に伴いG P増となるが、緊急対策一部解除に伴う費用増、震災（計画停電）による稼働損により営業利益は減少

赤外線・計測



- ▶ 低価格化の進行、競争の激化によりパンデミック特需の減をカバーできず
- ▶ さらに新製品投入遅れ、震災に伴う生産拠点の休業等により売上高が減少し、営業利益は悪化

配 当 金

当期の期末配当につきましては、経常利益を確保いたしましたものの、東日本大震災の影響による特別損失の計上により当期純損失となりましたため、誠に遺憾ながら2011年3月25日の公表のとおり、記念配当を含め、普通株式配当金および第1種優先株式配当金とも無配とさせていただきます。

- 【売上高増加】** 前期比+28.7億円(+9.9%)
- ・官需(情報システム)・・・前期比 △ 4.1%
 - ・民需・・・・・・・・・・前期比+23.9%
- 特に赤外線・計測機器で大幅増
前期比+22.7億円(+48.1%)
- 【営業利益増益】** 前期比+3.6億円(+147.3%)
- ・官需(情報システム)・・・前期比 △ 3.0億円
 - ・民需・・・・・・・・・・前期比 + 7.2億円
- 赤外線・計測機器は売上増に伴い大幅増
前期比 +4.7億円
- 【配当金】** 当期純利益は黒字転換を見込むものの、
事業環境が先行き不透明であるため
現時点では未定

2012年3月期業績見通し

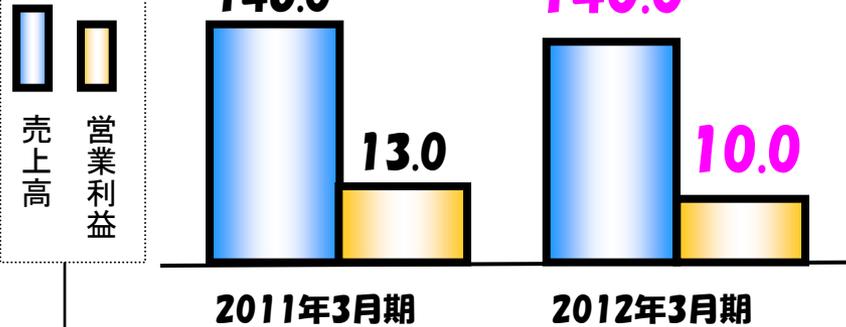
(金額単位: 億円)

	2011年3月期	2012年3月期			
		上期		増減額	増減率
売上高	291.3	140.0	320.0	28.7	9.9%
営業利益 (営業利益率)	2.4 0.8%	0.0 0.0%	6.0 1.9%	3.6 1.0%	147.3%
経常利益 (経常利益率)	1.4 0.5%	△ 0.7 △ 0.5%	4.5 1.4%	3.1 0.9%	223.0%
当期純利益 (当期純利益率)	△ 1.8 △ 0.6%	△ 2.5 △ 1.8%	0.5 0.2%	2.3 0.8%	—
1株当たり配当金	0.0	0.0	未定	—	—

セグメント別業績見通しサマリー

情報システム

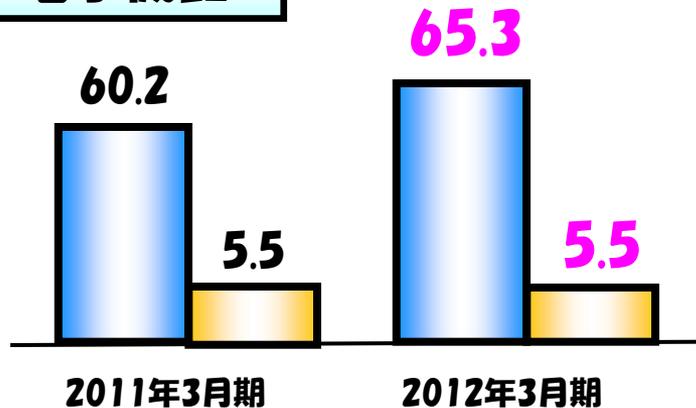
億円



➤プロジェクトの減少に伴い売上高は減少

➤売上減及びフロダクトミックスにより営業利益は減少

電子機器

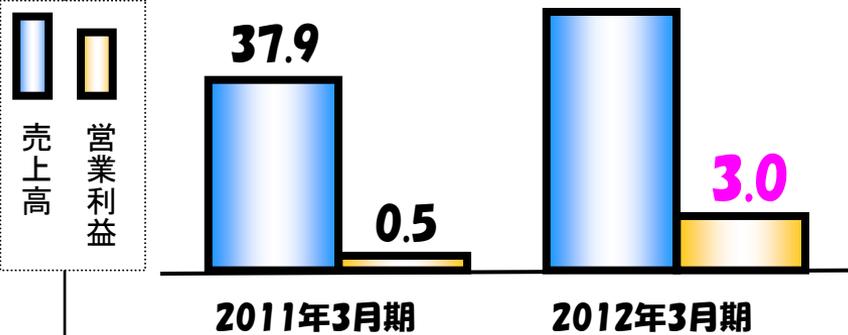


➤プロジェクトの新製品投入効果及び接合機器の水晶デバイス市場の深耕と成長領域の取り込みにより売上高は拡大

➤売上増によるGP増はあるが新製品開発投資により営業利益は横ばい

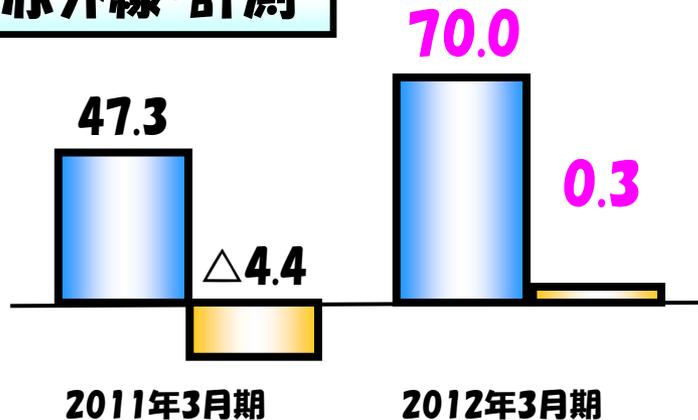
セグメント別業績見通しサマリー

プリント配線板



- ▶ 半導体検査機器市場の回復と新規顧客開拓により売上高は増加
- ▶ 売上増及びものづくり改革により営業利益は増加
- ▶ 材料確保に引き続き注意を要する

赤外線・計測



- ▶ 新製品投入によるラインアップ強化とアライアンスを加速するとともに、北米市場の積極展開、セキュリティ市場本格参入で売上高は拡大
- ▶ ものづくり改革による原価低減により営業利益を黒字化

◆赤外線サーモグラフィの貸与

・防衛省技術研究本部 他 約30台

【防衛省HP】福島第1原子力発電所における温度測定結果について

計測条件

計測日時：4月26日0722-0748

天候：晴れ

気温：10℃(福島県相馬市、7時)

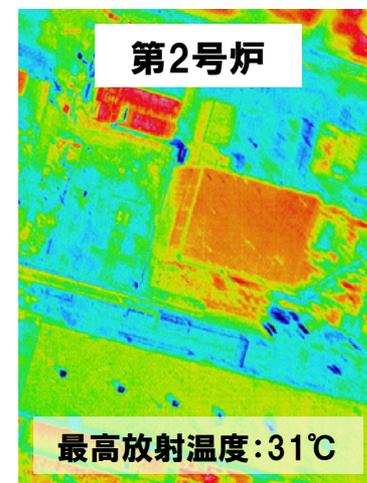
高度：約3,000ft(約900m)

使用ヘリ：CH-47(陸自第1ヘリコプター団)

使用機材：NEC/Avio 赤外線サーモグラフィ装置他

撮影範囲：約170m×約130m(@3,000ft)

測定温度範囲：0～500℃



◆義援金

- ・会社寄付：中央共同募金会、福島県郡山市防災対策本部
- ・従業員カンパ：被災したグループ従業員 [福島アビオニクス(株)]

プロジェクタ

防災対策本部、
学校等への設置



防衛・宇宙

防衛省基地・装備品の復旧
防災、消防等の社会インフラ整備

情報福祉

緊急通報システム



接合機器

発電、蓄電等の
エネルギー関連



安心・安全
環境・防災

赤外線機器

構造物診断、防災、監視等

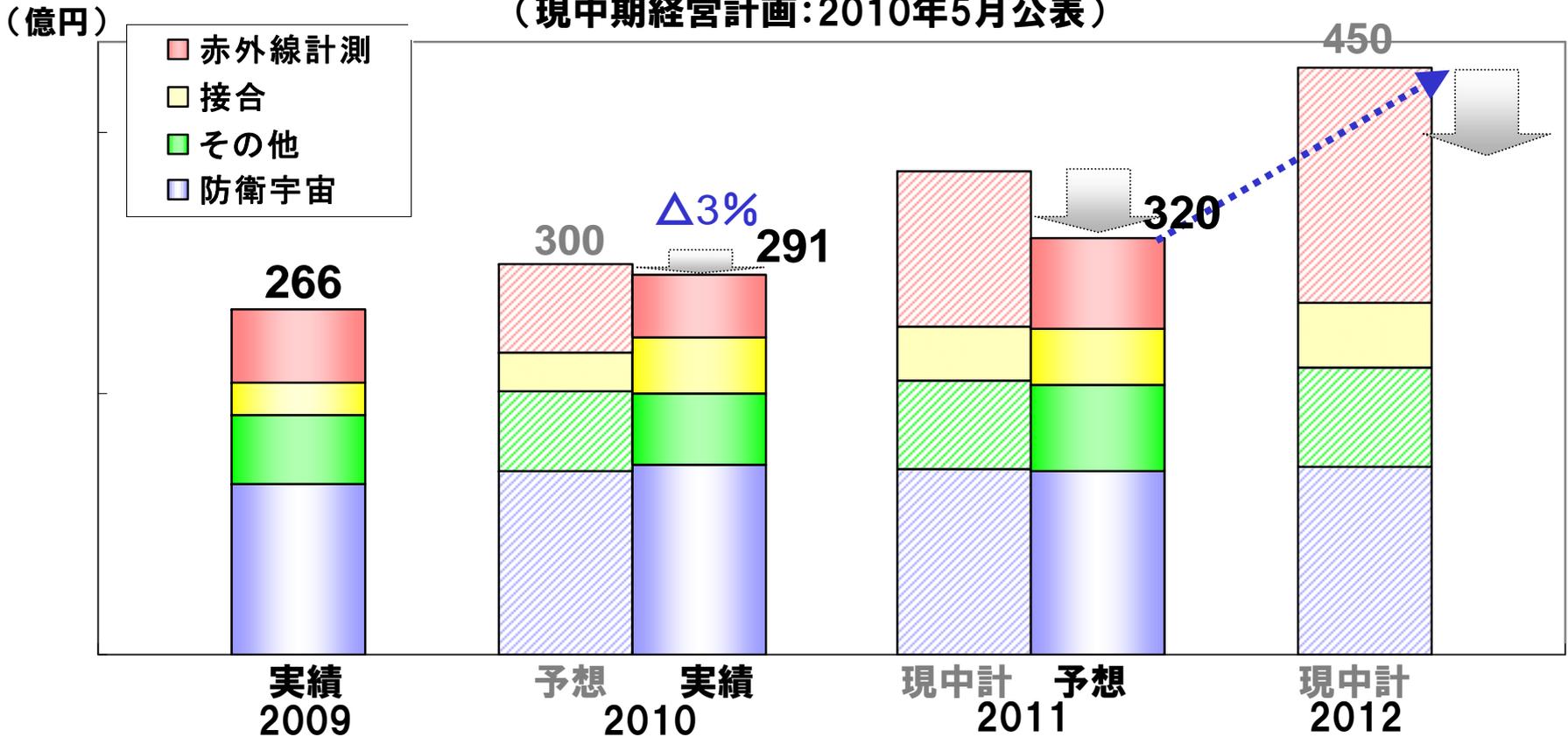


中期経営計画について

(2010年4月~2013年3月)

- ◆ **現中期経営計画の進捗**
- ◆ **中期的に目指す方向性**
- ◆ **防衛・宇宙事業の状況** [基盤事業]
(情報システム)
- ◆ **接合機器事業の状況** [戦略成長事業]
- ◆ **赤外線計測事業の状況** [戦略成長事業]

現中期経営計画の進捗



**赤外線計測の成長遅れにより、2012年度の達成を断念
連結財務ターゲットおよびその達成時期を含め、あらためて策定**

中期的に目指す方向性

“市場創造型企業への転換”を目指す

この方向性は不変！

市場創造型企業へ

グローバル化の展開



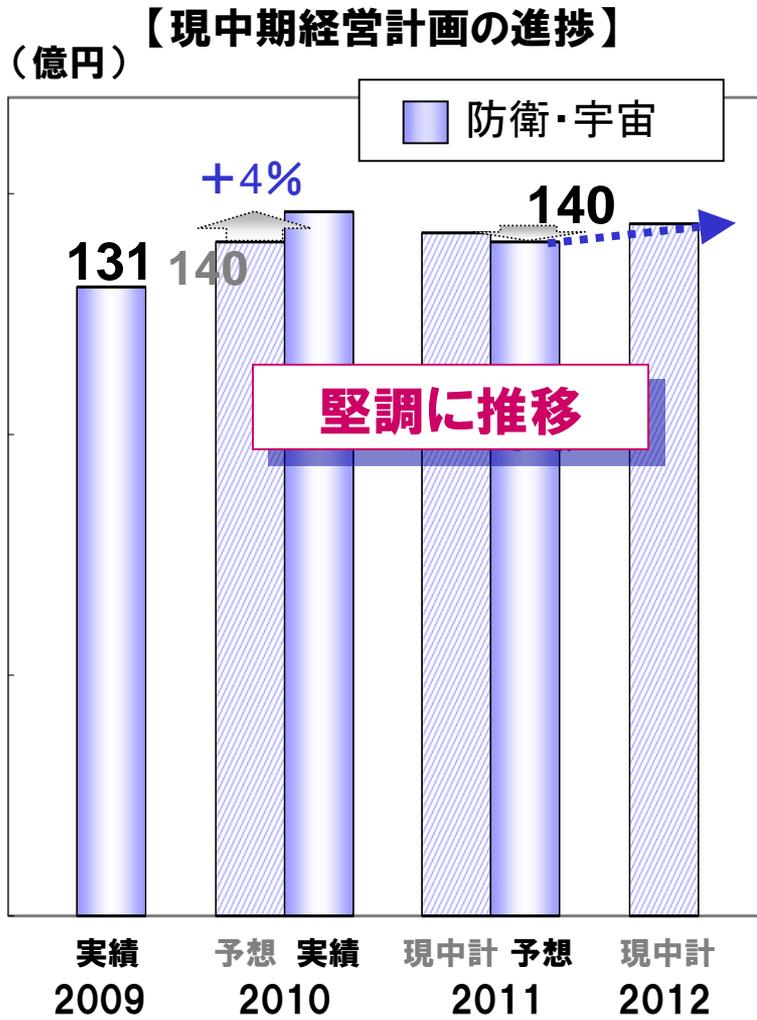
2009

■ 民需事業を積極展開

特に、ニッチでも高いシェアと技術力を有する
**赤外線機器のマーケット創造と
 接合機器の市場深耕に
 事業戦略の重点を置く**

■ 防衛事業は堅持

- ・ 永年にわたる信頼と実績で
基盤事業として堅持
- ・ 技術の集積により
底堅い売上を確保

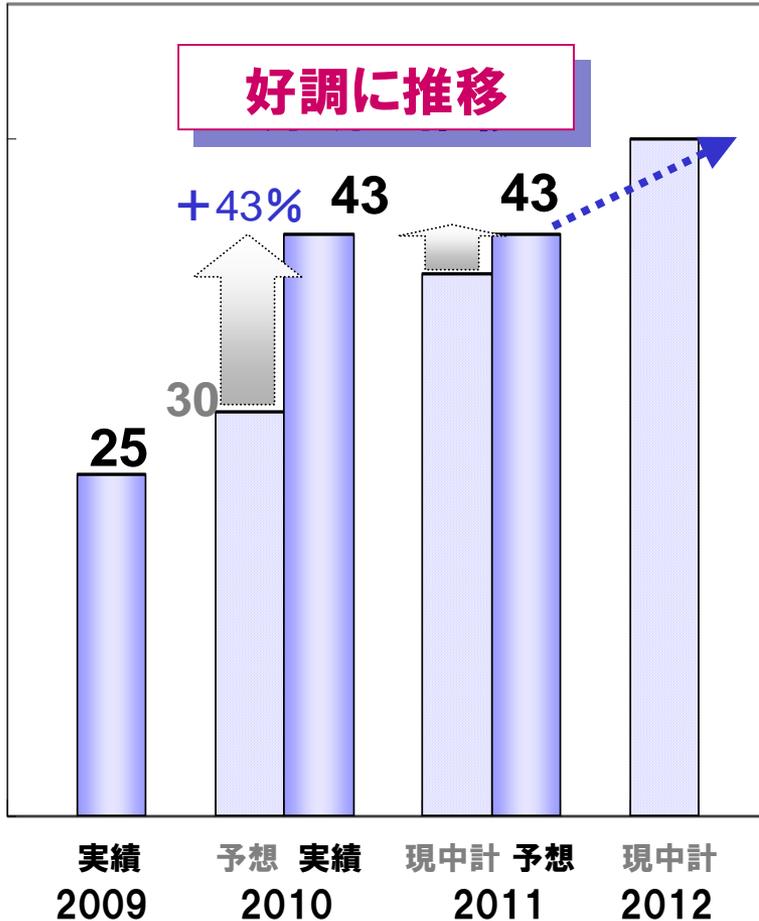


蓄積された信用と実績のある
多くの防衛用コア技術

画像処理・信号処理技術、
耐環境化技術、リアルタイム化技術等

- ◆防衛産業の中核を担い、
防衛体制の強化整備に貢献
 - ・国内外防衛関連企業とのアライアンス強化
 - ・共同開発事業等への参画
- ◆非防衛ビジネスへの展開加速
 - ・宇宙ビジネスの拡大
 - 部品から搭載装置、地上システムまで
 - ・ものづくり改革の推進
- ◆震災の復旧・復興に貢献
 - ・防衛用、宇宙用の技術を活用
 - 防衛省基地・装備品の復旧
 - 防災、消防等の社会インフラ整備に貢献

【現中期経営計画の進捗】
（億円）



◆市場環境

- ・携帯情報端末の急成長により市場拡大
- ・太陽電池等の環境対応市場が成長ドメイン

◆今後の展開

- ・高シェアを武器に、得意市場を深耕
 - －パルスヒート電源、全自動シーム溶接機
- ・成長市場への積極展開
 - －太陽電池、2次電池、MEMS市場
- ・新たなアプリケーションで新市場を創造
 - －微細化、小型化、自動化（アライアンス推進）
- ・中国、インド、東南アジア地域へ重点拡販

◆震災の復旧・復興に貢献

- ・発電、蓄電等のエネルギー関連需要に貢献

赤外線計測事業

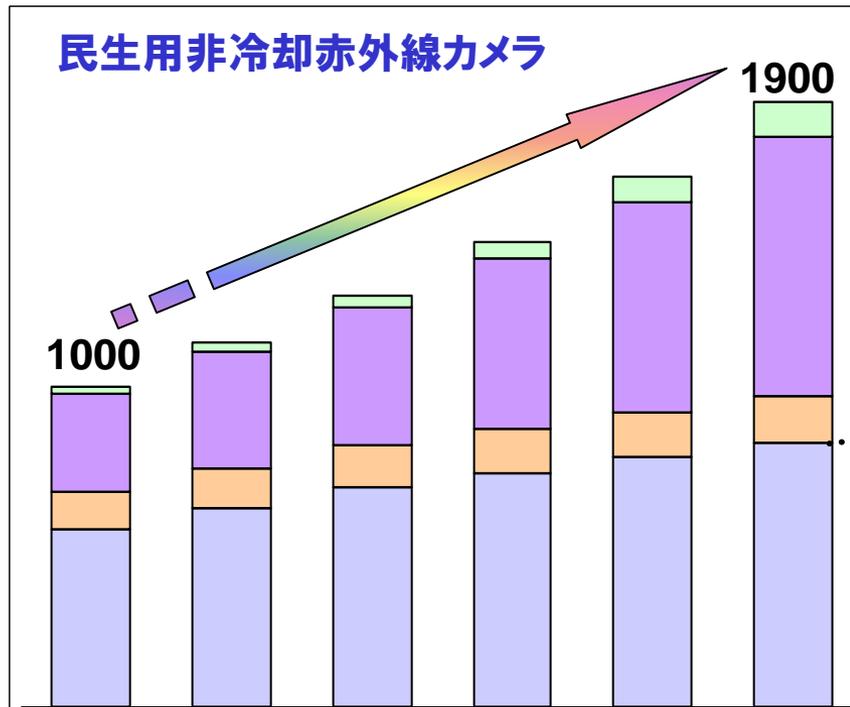
(戦略成長事業)

赤外線市場予測

◆W/Wで市場成長予測：CAGR＝14%（2010～2015）

- ・監視カメラ市場はセキュリティ分野で伸張
- ・サーモグラフィ市場は小型・軽量・低価格化で保守・保全用途が拡大

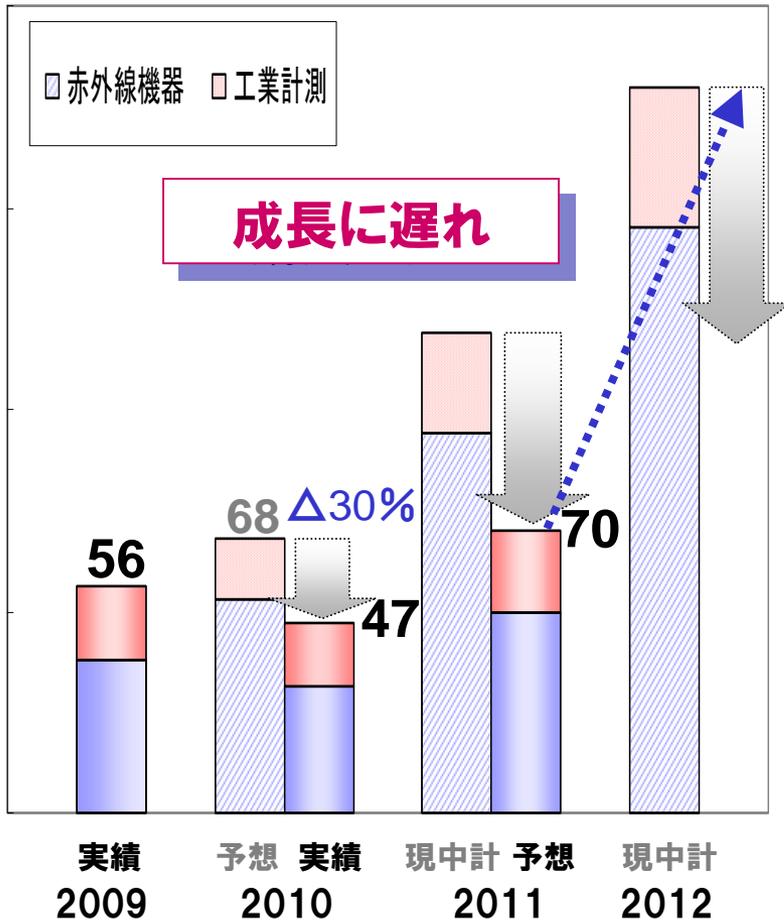
（億円）



（Yole Developpement社のデータをもとに当社作成）

カテゴリ	用途（例）
車載ほか	DVE (Driver's Vision Enhancement)
セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・重要施設、テロ対策（空港、港湾、原発） ・国境監視、市街地監視 ・船舶搭載
消防	<ul style="list-style-type: none"> ・人命救助 ・火元・残火確認
研究開発	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車、電池 ・デバイス開発
FA・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・金型管理、製鉄防災 ・プロセス検査
保守・保全 (PdM)	<ul style="list-style-type: none"> ・電気・電力設備 ・建築診断(断熱・外壁) ・土木構造物 ・熱ロス診断・環境測定

【現中期経営計画の進捗】
(億円)



◆2010マイナス成長で2012達成困難

- ・低価格化の進行、競争の激化
- ・新製品投入の遅れ
- ・東日本大震災の影響

◆市場環境

- ・世界市場（2010推定 1000億円）
－ 民生用赤外線カメラ市場は監視牽引で成長
- ・国内市場（2010推定 40億円）
－ サーモグラフィでトップシェア堅持

◆今後の展開

- ・新製品開発の期間短縮、製品ラインアップ充実
- ・W/Wにアライアンス推進（セキュリティに注力）
- ・ものづくり革新によるコスト競争力強化

◆震災の復旧・復興に貢献

- ・構造物診断、防災、監視等、赤外線カメラで貢献

製品ラインアップの充実

- ・ センサーからソリューションまで一気通貫のビジネス展開
- ・ 低画素からハイエンドモデルまでユーザーアプリにマッチした製品投入



World Wide / Win Win

◆成長するセキュリティ市場に注力

- セキュリティ機能向上による競争優位な製品の投入
 - 防振、ズームなどの光学系で差別化
 - 画質改善機能の強化 等

◆取り組み事例

- タムロン殿：セキュリティカメラの共同開発／共同生産
赤外線セキュリティカメラ S200シリーズ共同開発の発表（2011年2月23日）
 - 大幅な高感度化と多彩な画像処理を実現
 - 世界初となる遠赤外線カメラ用光学式防振機構
 - 業界最先端のズーム光学系を備えた交換レンズ
- 韓国大手メーカー：監視カメラの共同開発完了し供給開始



◆販売戦略

- **マーケティング強化、アプリ提案による新市場の開拓**
 - － 畜産（疾病の早期発見による飼育環境の改善）
 - － 太陽光発電（保守点検分野、安全性・効率性の向上）
- **海外市場への展開**
 - － 北米(最大市場):買収した販社“SOLTEC”を拠点に積極展開
 - － 中国(成長市場):電力、鉄鋼等の有力販社を開拓
 - － サービスセンター網の充実

◆コスト競争力の強化

- **Avioグループの生産工場である福島アビオへ調達生産を集約**
 - － サプライチェーンを含めた“ものづくり改革”の本格展開を開始

“市場創造型企業への転換”

『絶え間ない自己変革』
『枠を超えた挑戦』

- スピーディな事業展開
- グローバルに積極展開
- 事業体質のさらなる強化

グループ一丸となって邁進してまいります



本資料取扱上の注意

本資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、現在入手可能な情報に基づくものであり、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

そのため、実際の業績は、今後の事業領域を取り巻く経済状況、市場の動向により、記載された業績見通しとは異なる場合がありますことをご承知おきください。